北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

札幌医科大学学術機関リポジトリ ikor
SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	本学看護学生の自己および家族の栄養に関する検査データへの関心
Author(s)	堀口, 雅美; 井瀧, 千恵子; 酒井, 英美; 大日向, 輝美; 稲葉, 佳江; 浦澤, 价子
Citation	札幌医科大学保健医療学部紀要,第 4 号: 105-112
Issue Date	2001 年
DOI	10.15114/bshs.4.105
Doc URL	http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6568
Type	Journal Article
Additional Information	
File Information	n134491924105.pdf

・コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等が有します。
・利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
・著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

本学看護学生の自己および家族の栄養に関する検査データへの関心

堀口　雅美，井瀧千恵子，酒井　英美，大日向輝美，稲葉　佳江，浦澤　价子
札幌医科大学保健医療学部看護学科

要　旨

栄養に関する授業をもとに健康への関心が「自己」から「他者」へと広がりがあるのかを知るために、本学看護学科４年生52名を対象に質問紙集合調査を行い、有効回答数は46名（95.8%）であった。ここでは「他者」を家族の1名に限定し、以下の結果が得られた。

１）自分自身のヘモグロビン、血清総コレステロール値、空腹時血糖、収縮期および拡張期血圧に「関心がある」と回答した学生は41～45名であった。

２）家族の検査データへの関心の有無と健康状態との関連では、ヘモグロビン、血清総コレステロール値、空腹時血糖、収縮期および拡張期血圧いずれの項目にも関心があり、その家族の健康状態が「良好」は20名、「疾患もしくは症状あり」は25名であった。

３）栄養に関する検査データの家族への活用状況では、「活用あり」が25名、「活用なし」が21名であった。

以上のことから、調査対象である学生は自分自身および家族の栄養に関する検査データへの関心が高く、それらを家族への健康管理に活用していたことが示された。

〈索引用語〉看護学生、健康への関心、検査データ

Ⅰ　緒　言

看護基礎教育において看護の対象である人間の健康への関心を深めることは学習上重要である。健康への関心を「自己」から「他者」へ広げ、「個」の健康状態を理解するだけでなく、「集団」の特徴をとらえて健康教育に活用できるようにすることが学習のねらいである。そのために各教科目を担当する教員は学生の学習過程や学生自身のもっている発達段階の特徴を踏まえて授業を行っていくことが求められる。

平成８年度入学生に関する本学看護学科のカリキュラムでは２年次に「看護技術Ⅲ」、４年次に「健康管理論」が配置されていた。「看護技術Ⅲ」では学生自身の食生活行動を振り返り、各自の血液検査の結果を照合させて自らの栄養状態のアセスメントを行った[1)]。「健康管理論」では２年次に行った血液検査の結果から一集団としてクラスの特徴を明らかにすること、また成人の各種の健康診査について学習すること、というように主に成人の健康管理を中心に授業を行った。これを健康への関心の広がりという視点から考えてみると、２年次では「自己」を中心とした「個」の理解、４年次では「自己」を出発点とした「他者」の理解、そして「個」から「集団」への理解というような順序性が学習活動の中に組み込まれていると言えよう。

そこで「自己」から「他者」へと健康への関心が広がっているのかという点に着目し、今回は栄養に関する検査データの活用状況を中心に検討した。すなわち、２年次の血液検査[2)]で実施した項目のうちヘモグロビンと血清総コレステロール値を取り上げ、また頻繁に授業の中で出てくる項目として空腹時血糖、さらに血圧を加えた４項目をもとに、「他者」としてはもっとも身近な家族を取り上げ、家族に対する検査データの関心および健康管理への活用状況の有無を知り、健康への関心について分析した。

Ⅱ　方　法

１．調査対象

対象は本学看護学科４年生（平成８年度入学生）52名

著者連絡先：堀口　雅美　060-8556　札幌市中央区南１条西17丁目　札幌医科大学保健医療学部看護学科

のうち、調査当日に登校し文書と口頭で調査の協力が得られた48名である。有効回答者数は46名、有効回答率は95.8%で、調査対象の平均年齢は22.3±1.0（21～26）歳であった。

２．調査方法

調査方法は著者らが作成した記名自記式質問紙を用いた集合調査で、平成12年１月13日に実施した。調査内容は基本的属性、学生自身および家族の検査データに関する関心、食事回数、栄養に関する検査データの家族への活用状況であった（付表１）。なお本報告では過去の学習経験と検査データへの関心ならびに活用状況との間に関連性が認められなかったことから、過去の学習経験（付表１の問１と問２）については分析の対象から除外した。結果は各質問項目の単純集計およびクロス集計を行ったのち、χ^2検定を行い、$p<0.05$を有意とした。

Ⅲ　結　果

１．調査対象の概要

家族の続柄別に同居者の有無をたずねたところ、父もしくは母と同居の学生が約半数で、また祖父・祖母と同居している学生はそれぞれ２名ずついた（表１）。

表１　同居者の有

単位：人

続柄	同居	別居	その他（無回答）	合計
父	18	24	4	46
母	23	21	2	46
兄	2	9	35	46
弟	5	6	35	46
姉	3	11	32	46
妹	6	5	35	46
祖父（父方）	2	8	36	46
祖母（父方）	2	19	24（1）	46
祖父（母方）	0	12	34	46
祖母（母方）	0	23	22（1）	46
上記以外	1	1	44	46

今回の調査対象者の体格（平均値±標準偏差）は、身長158.9±5.5cm、体重49.7±5.7kg、およびBody Mass Index（以下BMIとする）19.6±2.1で、これらは２年次の調査結果と同様であった[2)]。なお体重とBMIは２名の記載がなかったことから44名で平均値と標準偏差を算出した。ふだん１日３回食事をとっているかという質問に対し「はい」が33名（71.7%）、「いいえ」は13名（28.3%）であった。もっとも大切にしている食事として「夕食」と答えた学生が28名（60.9%）、「昼食」が９名、「朝食」が５名、「３食とも」は４名であった。

２．学生自身および家族の検査データに対する学生の関心

自己と他者という対象別に学生の関心に違いがあるのかどうかを知るために、学生自身および家族の栄養に関する検査データについてその関心の有無をたずねた。ヘモグロビン、血清総コレステロール値、空腹時血糖、収縮期および拡張期血圧いずれの項目においても、学生自身と家族への関心が高かった。ヘモグロビンについては家族より学生自身のほうに関心の程度が高く、それ以外の項目では学生自身と家族に対する学生の関心はほぼ同じ程度であった（表２）。

表２　学生自身および家族の検査データへの関心

単位：人（%）

検査項目		関心あり	関心なし	合計
ヘモグロビン	学生自身	44（95.7）	2（4.3）	46（100.0）
	家　族	32（71.1）	13（28.9）	45（100.0）
血清総コレステロール値	学生自身	44（95.7）	2（4.3）	46（100.0）
	家　族	43（95.6）	2（4.4）	45（100.0）
空腹時血糖	学生自身	41（89.1）	5（10.9）	46（100.0）
	家　族	40（88.9）	5（11.1）	45（100.0）
収縮期血圧	学生自身	45（97.8）	1（2.2）	46（100.0）
	家　族	45（100.0）	0（0.0）	45（100.0）
拡張期血圧	学生自身	41（89.1）	5（10.9）	46（100.0）
	家　族	42（93.3）	3（6.7）	45（100.0）

家族への関心は、その関心の度合いがもっとも高い家族について分析するために家族の中の１名に限定して質問をした。「関心あり」が45名で、その内訳は父26名（56.5%）、母13名（28.3%）、そのほか兄弟姉妹、祖母であった。「関心なし」と回答した学生は46名中１名であった。対象となった家族45名の平均年齢は50.9±10.6歳で年齢の幅は20～86歳、家族の健康状態は「良好」20名（44.4%）、「疾患もしくは症状あり」25名（55.6%）であった。学生とその家族との居住形態は、「ずっと同居」と「ずっと別居」がそれぞれ16名（35.6%）、「途中で居住形態の変更あり」13名（28.8%）であった。その家族を選んだ理由は、家族の健康状態が「良好」の場合、学生がその家族の生活習慣に問題を感じていたり、健康診断の結果を見たりしたからという回答であったが、なかには健康状態を良好としながらも症状のある場合も含まれていた。一方、「疾患もしくは症状あり」の場合は生活習慣病のほか、たとえば体重減少といった健康状態の低下につながる症状があげられていた（表３）。

「関心あり」と回答した学生に対し、学生自身およびその対象となった家族の検査データは「基準値より低い」、「基準値内」、「基準値より高い」のいずれであるかを項目別にたずねた。学生自身について、「基準値より低い」としたのがヘモグロビン18名、収縮期血圧16名、「基準値より高い」としたのが血清総コレステロール値16名、空腹時血糖については「基準値内」とした人が30名であった。家族について「基準値より高い」としたのが、血清総コレステロール値34名、収縮期血圧25名、拡張期血圧21名であった（表４）。学生の関心度を家族の健康状態別にみたところ、拡張期血圧以外では家族の健康状態に関わらず関心ありのほうが多いという結果であった。学生の関心の有無と家族の疾患あるいは症状の有無間の関連性をχ^2検定で検討したが、いずれも有意差は認められなかった（表５）。

表３　家族の検査データについて「関心あり」とした理由（無回答５名を除く）

家族の健康状態	学生	理　　由
良好	1	元気そうだから。
	2	壮年期だから。
	3	別居しており、父が１人暮らしであるため。
	4	同居していないので。
	5	もっとも身近な家族なので。
	6	夜遅くまでの残業はほぼ毎日で23時以降の食事が目立つため。
	7	濃い味付け、脂っぽいものが好きなので、コレステロール、血糖値などが気になる。
	8	毎日飲酒しているから。
	9	太っているから。
	10	血圧が高めである。
	11	平成11年10月に大腸ポリープを２つ切除したため。
	12	総コレステロール値が高く、本人も気にしているため。
	13	コレステロール値が高いと言っていたので。
	14	健診の結果を見せられて。
	15	健診で引っかかっているから。
	16	健康診断の結果をみたから。
	17	貧血傾向だから。
	18	１／４に一緒に献血に行った。
疾患もしくは症状あり	19	糖尿病の疑いがあるため。
	20	薬を飲んでいるため（高血圧）。
	21	血圧が高い状態が何年も続いているので、気になっているから。
	22	くも膜下出血に突然なったから（今まで健康そのものと思っていたが）。
	23	太っているから。祖母が糖尿病であるため心配。
	24	隠れ肥満が強度。
	25	今のところ症状はないが、肥満なので脳梗塞や心筋梗塞にならないか心配。
	26	体調がよくない。食事をきちんととっていない（肝硬変）。
	27	脂肪肝といわれているので。
	28	疾患（潰瘍性大腸炎）により食生活が変化するため。
	29	痛風なのに、カニやウニが好きでよく食べるから。
	30	会社の健診で毎年要精査と言われているにも関わらず、１回も精査を受けに行かないから。
	31	単身赴任してから食生活が乱れて健康診断で引っかかったらしいから。
	32	義歯不適合、食欲不振、体重減少などみられるから。
	33	食べても食べてもやせてくるから、何か病気がありそうなので。また、しょっぱいものが好きで、よく塩、醤油をつけているので。
	34	一家の主だから。ずっと慢性胃炎だから。お酒を飲む人だから。
	35	医師にアルコールは控えるよう言われているが私が見るときはいつも飲んでいて言ってもやめないから。
	36	よく病気の様子について話を聞いてあげたり、血圧を測ってあげるから。
	37	母しか身近な家族がいない。
	38	健康診断を毎年受けており、データをみることができるため。
	39	身体に症状が現れているから。
	40	体調の変化に関する訴えが多いため。

表４　学生自身および家族の検査データへの「関心あり」の内容

単位：人

検査項目		基準値より低い	基準値内	基準値より高い	無回答	合計
ヘモグロビン	学生自身	18	26	0	0	44
	家　族	9	23	0	0	32
血清総コレステロール値	学生自身	0	28	16	0	44
	家　族	1	8	34	0	43
空腹時血糖	学生自身	7	30	2	2	41
	家　族	1	22	17	0	40
収縮期血圧	学生自身	16	28	1	0	45
	家　族	4	16	25	0	45
拡張期血圧	学生自身	9	30	2	0	41
	家　族	3	18	21	0	42

表５　家族の健康状態と検査データへの関心

単位：人

項目	関心の有無	良好	疾患・症状あり	合計	χ^2検定
ヘモグロビン	あり	13	19	32	n.s.
	なし	7	6	13	
血清総コレステロール値	あり	19	24	43	n.s.
	なし	1	1	2	
空腹時血糖	あり	17	23	40	n.s.
	なし	3	2	5	
収縮期血圧	あり	20	25	45	検定不能
	なし	0	0	0	
拡張期血圧	あり	18	2	20	n.s.
	なし	24	1	25	

n.s.:　no　significance

３　栄養に関する検査データの家族への活用状況

栄養に関する検査データを家族の健康管理に活用したかたずねた。この質問では対象となる家族を１名に限定せずにたずねたところ、「活用あり」が25名（54.3%）、「活用なし」が21名（45.7%）であった。なお「活用あり」と回答した25名のうち、その家族の健康状態が「良好」は10名、「疾患もしくは症状あり」は13名、「不明」は１名であった。活用した検査データはヘモグロビン９名、血清総コレステロール値16名、空腹時血糖7名、血圧18名であった。活用した対象は父15名、母17名でそのほかに弟や妹、祖母であった。活用した内容では、検査項目と食生活との関連をあげた人が多く、これまでの学習内容を家族の具体的な生活場面に適合させながら活用していた（表６）。

Ⅳ　考　察

初学者における学習の動機づけには「自己」を知ることがある[1]。健康への関心においても同様で、「自己」への関心から「他者」への関心へと広がることが必要である。今回は２年次と４年次に行った学習活動のうち栄養に関する検査データについて実態調査を行い、健康への関心の広がりについて分析を試みた。

今回の調査では、栄養に関する自分の検査データへの学生の関心は高く、それは家族に対しても同様であった。家族の健康状態と検査データへの関心の有無との間に有意差が認められなかった（表５）ことから、学生は疾患や症状の有無とは関係なく家族の健康状態に着目していることが示唆された。すなわち、健康状態が低下しているから健康に関心があるというのではなく、健康状態が良いときであっても予防的な視点から健康をとらえていると思われる。表３に示した家族の検査データについて「関心あり」とした理由からも同様のことが推察され、これは健康への関心が身近な存在である家族にも広がっているものと考えられる。栄養に関する検査データを家族への健康管理に活用したことがあるかということについて25名（54.3%）が活用していた。活用するかしない

表６　家族への検査データの活用内容

学　生	活　用　内　容
1	父は空腹時にふるえ、発汗など低血糖症状が時々見られるので、飴を食べるよう勧めた。また健康診断の結果をよくみるようにいった。父は何にでも醤油をかけて食べたり、漬け物など塩分の多いものを好んで食べるので気をつけるように言った。父、母にデジタル血圧計で血圧を測り、チェックしている。
2	血圧測定をし、正常であることを確かめる。
3	食生活の改善について。
4	父にあまり塩辛いものや脂っこいものを夜遅く食べないよう伝えた。
5	ヘモグロビンが低いということは貧血傾向にあるのだから、鉄分の多い食品を摂取するように努めたり、どこかで出血しているのかもしれないから、値がずっと低いのであれば病院受診をするように勧めたりした。血清総コレステロール値が高いと動脈硬化や高血圧になりやすいので食事の内容を改善するように勧めたりした。
6	検査データを詳しく教えた。食事の管理について偏った考え方（肉は食べない等）があったため、正しい食事管理について教えた。
7	コレステロールが低い食べ物を一緒に食べるようにした。血圧はあまり運動をしすぎてもよくないということを伝えた。
8	血圧測定。
9	貧血状態における症状やその機構を説明するため。近隣の糖尿病の方のその症状や食事管理、単位計算等の説明のため。
10	母が高血圧で通院している。妹も医療系の短大なので練習がてら血圧を測った。
11	食生活で気をつけることや値についての話をした。
12	母はヘモグロビン値が低く貧血気味なので、鉄分を多く含む食品を教え摂取するように話した。
13	血圧を測定してあげた。
14	血清総コレステロール値～父は高値であるが、食生活の面（例：パンにバターをべったり塗る）で気を使うように両親に伝える。 血圧～自宅の器械で、今低いからよかったという両親に定期的に計測し、年々の変化が大切なので、今はよいかもしれないが、継続の大切さを伝える。
15	健康診断の結果を基に糖尿のコントロール状態、検査値の意味や気をつけることなどを教えた。
16	１日に卵を４個も食べてはいけないと説明した。
17	母と祖母は高血圧で降圧剤を飲んでいるのできちんと薬を飲むように、塩分を取りすぎないように、ストレスがたまらないように休むことも必要と血圧について指導した。父と祖父は高脂血症で祖父は糖尿病もあったためコレステロール値、血糖値を活用した。でも父も祖父も今の食生活が自分で身体によくないことはわかっているので、私が言ってもきいてくれなかった。
18	（血清総コレステロール値が）高いので、食事について改善してほしいと頼んだ。
19	食事内容の指導（血清総コレステロール値）。
20	週に１回ぐらいは血圧を計測している。（母自身の気にかけていることから）
21	コレステロール値を下げるためにウォーキングを勧めた。
22	糖尿病ではないが、その食事療法について話したことがある。80kcal=1点と数える方法を本を見ながらやった。血圧については健康診断や病院での測定値を聞き、高血圧による脳梗塞、脳出血のおそれや動脈硬化による問題について話した。母が今、更年期なので体調、生理周期、血圧について聞き、なぜそうなるのかを話した。
23	正常値を教える。血圧のしくみやコレステロール値、血糖などと血圧の関係、腎臓、心臓の機能なども含めて家族に教えた。
24	ヘモグロビン値が基準値よりかなり低いので、鉄剤を飲むことを忘れないようにと、定期的に病院へ行くように言った。コレステロール値がやや高かったのは、ホルモンバランスと年齢的なものだろうと言った。血圧は少し高いし、祖母が脳出血で倒れていることから毎日血圧測定する習慣をつけるように言った。

かは学生の知識だけではなく、その対象となる家族の健康状態にも依存すると思われるが、今回「活用した」と回答した25名のうち、健康状態が「良好」の家族は10名、「疾患もしくは症状あり」の家族は13名であった。このことも健康への関心は健康レベルが低下した場合だけではなく、良い健康レベルの維持という面からの理解が深まっているものと思われる。

なお家族の検査データへの関心のうち、拡張期血圧は表５に示したように「関心あり」が20名、「関心なし」が25名と他の項目とは異なる結果であった。このことは対象となる家族の健康状態が良好であるから、あるいは血圧というと収縮期血圧に着目しがちになるからといったさまざまな理由が考えられるが、今回の調査では明らかにできなかった。また、家族の検査データへの関心はその対象を１名に限定して質問した一方、家族の健康管理への活用状況は１名に限定しなかったため両者の関連性は検討できなかった。

梶岡ら[3]が大学１年生を対象に行った保健知識に関する調査では、医学部学生において保健知識の定着度が他学部（教育学部、工学部、法学部など）と比べて高いことが示唆された。またShriverら[4]は健康に関するライフスタイルについて看護系と非看護系の学生を対象に調査を行ったところ、看護系の学生のほうが非看護系の学生より望ましい生活習慣をもっていたと述べている。

看護職として健康への関心を高めていくことが重要である。そのためにはまず学生自身が「健康学習者」として位置づけられ、健康に関する学習を学生自らが実際に経験する機会をもつことが効果的である。学習の理解を助けるのは、基礎的知識・技術に加えて、直接自分自身が経験することであり、自分自身の体を通した経験は頭でわかる段階を一歩すすめた納得を可能にする[5]。また学習したことはたびたび使うことが肝心であり、頻繁に繰り返していくうちに知識の統合力が生まれ、論理性も強められていく[6]。学生が家族の健康状態に関心をもっていたり、また学習した内容を実際に家族の健康管理に活用していることが今回の調査から明らかになった。この点は学習成果の一端とうかがえるが、教育評価[7－10]という視点からはさらなる検討が必要である。

今回の調査では「他者」を家族に限定していることから、今後は「他者」の範囲を広げること、さらに教授する立場として、知識の統合力を高めていくために学習内容を学生自身が直接経験し、その意味を深める機会を積極的にもてるように授業方法を工夫していくことが課題である。

文　献

1）酒井英美，大日向輝美，堀口雅美，ほか：「食生活への援助」に関する教育方法の検討―自己の食生活を学習モデルに活用して．札幌医科大学保健医療学部紀要 2：45－49, 1998

2）堀口雅美，井瀧千恵子，　酒井英美，ほか：看護系女子大生の栄養バランスと血液性状の実態－平成９年度国民栄養調査結果との比較－．学校保健研究 42：215-226，2000

3）梶岡多恵子，下方浩史，押田芳治，ほか：大学生の保健知識に関する調査．学校保健研究 41：3-11，1999

4）Cathy B. Shriver, Scott-Stiles: Health habits of nursing versus non-nursing students: a longitudinal study. J. Nurs. Educ. 39：308-314, 2000

5）小野殖子：看護教育の視座（手づくりの教育をめざして）．東京，ゆみる出版，1987，p41

6）前掲書５）p42

7）辰見敏夫編：教育評価小辞典．東京，協同出版，1982，p51

8）舟島なをみ，杉森みど里：看護学教育評価論－質の高い自己点検・評価の実現．東京，文光堂，2000，pp19－21

9）前掲書８）pp29－53

10）香取草之助監訳：授業をどうする－カリフォルニア大学バークレー校の授業改善のためのアイディア集．東京，東海大学出版会，1995

付表１　調査票：「看護学生に対する教育活動の効果～栄養に関する指標の活用」についての調査

学籍番号		氏名	

問１　２年次の「看護技術Ⅲ」で「食生活の援助」を学習しました。そのときに血液検査等も行いましたが、次の検査結果についての記憶はありますか。１～４それぞれの検査項目について、該当する番号を○で囲み、検査結果を覚えている場合には数値も記入してください。

検査項目	回　答	
1　ヘモグロビン	1）記憶にある（値　　位）	2）記憶にない
2　血清総コレステロール値	1）記憶にある（値　　位）	2）記憶にない
3　収縮期（最高）血圧	1）記憶にある（値　　位）	2）記憶にない
4　拡張期（最低）血圧	1）記憶にある（値　　位）	2）記憶にない

問２　２年次の時点で、自分の食生活に問題点はありましたか。１）～３）のうちあてはまるもの一つを○で囲み、問題点のあった人はその内容、その時点での対処方法、現在の問題点の状況を簡単に書いてください。

１）問題点があった　　２）問題点はなかった　　３）記憶にない

内容：　　その時点での対処方法：　　問題点の現在の状況：

問３　本調査票の記入日時点において、あなたは自分の検査データについて関心がありますか。１～５の検査項目それぞれに関し、その関心の有無について該当する番号のいずれか一方に○をつけてください。さらに、関心がある場合はａ～ｄのうちもっとも近い内容１つを○で囲んでください。

検査項目	回　答			
1　ヘモグロビン	1）関心がある	内容	a：自分のデータは基準値より低いのではないか b：自分のデータは基準値内であろう c：自分のデータは基準値より高いのではないか d：その他（　　）	2）関心がない
2　血清総コレステロール値	1）関心がある	内容	a：自分のデータは基準値より低いのではないか b：自分のデータは基準値内であろう c：自分のデータは基準値より高いのではないか d：その他（　　）	2）関心がない
3　空腹時血糖	1）関心がある	内容	a：自分のデータは基準値より低いのではないか b：自分のデータは基準値内であろう c：自分のデータは基準値より高いのではないか d：その他（　　）	2）関心がない
4　収縮期（最高）血圧	1）関心がある	内容	a：自分のデータは基準値より低いのではないか b：自分のデータは基準値内であろう c：自分のデータは基準値より高いのではないか d：その他（　　）	2）関心がない
5　拡張期（最低）血圧	1）関心がある	内容	a：自分のデータは基準値より低いのではないか b：自分のデータは基準値内であろう c：自分のデータは基準値より高いのではないか d：その他（　　）	2）関心がない

問４　２年次から本調査票の記入日までの間、あなたはあなたのご家族の検査データに関して関心をもったことがありますか。ご家族の方１名についてＡ.からＤ.の設問にお答えください。なおこの場合の家族とは父、母、兄弟姉妹、祖父、祖母のいずれか１名についてであり、同居・別居は問いません。

Ａ.回答する家族の続柄１つに○をつけてください。

１　父　　２　母　　３　兄　　４　姉　　５　弟　　６　妹　７　祖父　８　祖母　９　いない（→設問Ｄ.へ）

Ｂ.その方の本調査票の記入日時点の年齢と、２年次から本調査票の記入日までの間の健康状態および同居・別居の別をお書きください。

１　年齢　　満（　　）歳

２　健康状態　　１）　良好　　２）　疾患もしくは症状あり（具体的に　　）

３　同居・別居　　１）　ずっと同居　　２）　ずっと別居　　３）　途中で居住形態の変更あり

Ｃ.その方を選んだ理由をお書きください。（　　）

Ｄ.１～５の検査項目それぞれに関し、その関心の有無を該当する番号いずれか一方に○をつけてください。さらに、関心がある場合はａ～ｄのうちもっとも近い内容１つを○で囲んでください。

検査項目	回　答			
1　ヘモグロビン	1）関心がある	内容	a：家族のデータは基準値より低いのではないか b：家族のデータは基準値内であろう c：家族のデータは基準値より高いのではないか d：その他（　　）	2）関心がない
2　血清総コレステロール値	1）関心がある	内容	a：家族のデータは基準値より低いのではないか b：家族のデータは基準値内であろう c：家族のデータは基準値より高いのではないか d：その他（　　）	2）関心がない
3　空腹時血糖	1）関心がある	内容	a：家族のデータは基準値より低いのではないか b：家族のデータは基準値内であろう c：家族のデータは基準値より高いのではないか d：その他（　　）	2）関心がない
4　収縮期（最高）血圧	1）関心がある	内容	a：家族のデータは基準値より低いのではないか b：家族のデータは基準値内であろう c：家族のデータは基準値より高いのではないか d：その他（　　）	2）関心がない
5　拡張期（最低）血圧	1）関心がある	内容	a：家族のデータは基準値より低いのではないか b：家族のデータは基準値内であろう c：家族のデータは基準値より高いのではないか d：その他（　　）	2）関心がない

問５　あなたご自身のことについてうかがいます。

Ａ．本調査票の記入日時点での年齢はいくつですか。　　満（　　）歳

Ｂ．本調査票の記入日時点での身長と体重をご記入ください。

1　身長（　　）cm（小数点以下第１位まで）　　2　体重（　　）kg（小数点以下第１位まで）

Ｃ．あなたはふだん１日３回食事をとっていますか。該当する方を○で囲んでください。　　1）　はい　　2）　いいえ

Ｄ．あなたがふだん、朝食、昼食、夕食のうち、もっとも大切にしている食事を１つ選んでその番号に○をつけてください。

1）　朝食　　2）　昼食　　3）　夕食　　4）　３食とも

Ｅ．本調査票の記入日時点において、あなたと同居している人はいますか。同居者の有無と健康状態をお書きください。兄弟姉妹の場合は該当するところに○をつけ、それぞれの人について同居・別居の別を、また該当者のいない場合は「３）該当なし」としてください。
健康状態については同居・別居の区別なく、全員について該当する方に○をつけてください。

同居者	同居・別居の別			健康状態	
1　父	1）同居	2）別居	3）該当なし	1）良好	2）疾患・症状あり
2　母	1）同居	2）別居	3）該当なし	1）良好	2）疾患・症状あり
3　兄・弟・姉・妹	1）同居	2）別居	3）該当なし	1）良好	2）疾患・症状あり
4　兄・弟・姉・妹	1）同居	2）別居	3）該当なし	1）良好	2）疾患・症状あり
5　兄・弟・姉・妹	1）同居	2）別居	3）該当なし	1）良好	2）疾患・症状あり
6　兄・弟・姉・妹	1）同居	2）別居	3）該当なし	1）良好	2）疾患・症状あり
7　祖父（父方）	1）同居	2）別居	3）該当なし	1）良好	2）疾患・症状あり
8　祖母（父方）	1）同居	2）別居	3）該当なし	1）良好	2）疾患・症状あり
9　祖父（母方）	1）同居	2）別居	3）該当なし	1）良好	2）疾患・症状あり
10　祖母（母方）	1）同居	2）別居	3）該当なし	1）良好	2）疾患・症状あり
11　その他	1）同居	2）別居	3）該当なし	1）良好	2）疾患・症状あり

問６　ヘモグロビン、血清総コレステロール値、空腹時血糖、血圧の４項目に関して、あなたがこれまでに学習したことを家族への健康管理に活用したことはありますか。活用の有無について該当する番号いずれか一方に○をつけて下さい。さらに、４項目のいずれかを活用したことのある人はその項目と対象者すべてを○で囲み、活用した内容を簡単に書いてください。なお、この場合の家族は父、母、兄弟姉妹、祖父、祖母のいずれでもよく、また同居・別居の別は問いません。

1）活用したことがある　　2）活用したことはない

項目：　1　ヘモグロビン　　2　血清総コレステロール値　　3　空腹時血糖　　4　血圧

対象者：　1　父　　2　母　　3　兄　　4　姉　　5　弟　　6　妹　　7　祖父　　8　祖母

活用した内容：

（ご協力ありがとうございました。）

A survey, on nursing students, of a concern regarding nutritional markers

Masami HORIGUCHI, Chieko ITAKI, Hidemi SAKAI,
Terumi OOHINATA, Yosie INABA, Tomoko URASAWA

Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

Abstract

The purpose of this survey was to determine the achievement of learning objectives established for nutritional classes. Final year nursing students were expected to be concerned regarding health, starting with their concern for their own health and broadening this to a concern and care for the health of others. Data was collected by means of questionnaire responses from 48 students. The results can be summarized as follows.

１．Approximately 90 percent of the students had an awareness of their own nutritional markers, hemoglobin, serum total cholesterol, fast blood sugar, and systolic and diastolic blood pressure.

２．The students were concerned regarding the nutritional markers, hemoglobin, serum total cholesterol, fast blood sugar, and systolic and diastolic blood pressure, of their family members. Roughly 40 percent of the family members were in good health and the remainder were not.

３．Twenty－five of the students provided support for their family members regarding nutritional markers, while the remainder did not.

The survey revealed that the final year students not only showed an interest in their own nutritional markers, but also by extending their knowledge to their family members they are able to extend their learning to their care for others.

Key words: Nursing students, A concern for the health, Nutritional markers